

疲労を有する中枢神経系自己免疫性疾患症例の臨床像の把握

研究分担者： 磯部 紀子 九州大学医学部神経内科学

研究協力者： 福元 尚子、田中 栄蔵、藤井 敬之、渡邊 充、眞崎 勝久
九州大学医学部神経内科学

研究要旨

当科では、多発性硬化症や視神経脊髄炎スペクトラム障害、全身型重症筋無力症、自己免疫性脳炎など、慢性的な疲労を呈する疾患を有する患者を多く診療している。当科通院中の中枢神経系自己免疫性疾患患者における疲労の現状を把握し、今後のME/CFSにおける検討に役立つ知見を見出すこととする。

A. 研究目的

当科に通院加療中の患者において、筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群（ME/CFS）との鑑別を要する症例についての現状を把握する。

B. 研究方法

当科通院歴のある中枢神経系自己免疫性疾患患者のうち疲労状況について診療データを収集した患者について、疲労の頻度等の解析を検討する。また、事務局で実施された各施設におけるME/CFS症例についての全国調査に協力する。さらに、代表機関でME/CF S症例のバイオマーカー候補が絞り込まれた場合、当科での再現性の検討にも備えておく。

（倫理面への配慮）多発性硬化症を中心とする中枢神経系自己免疫性疾患における疲労データについては、倫理委員会の承認を得て収集済である。

C. 研究結果

事務局より送付された、各施設におけるME/CFS症例についての全国調査に回答した。疲労・疼痛を呈する様々な症例に、ME/CFSや、重症筋無力症やその他の免疫疾患を含む神経疾患の鑑別を行える体制を整えつつある。

D. 考察

ME/CFS症例の診断場面で役立つ知見が得られることが期待される。

E. 結論

ME/CFSの病態把握、バイオマーカーの再現性に向けた準備を進めた。

F. 健康危険情報 特になし

kyuG. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Iwao K, Watanabe M, Mukaino T, Fujii T, Yamasaki R, Isobe N. A case report of anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis with chromosomally integrated human herpesvirus 6. *Neurol Clin Neurosci*, 11:52-54, 2023.
- 2) Saitoh BY, Tateishi T, Yoshimura M, Suzuki SO, Isobe N, Iwaki T, Kira JI. Cerebral Tuberculoma with Mild Posterior Cervical Pain as the Main Symptom Despite Extensive Brain Lesions. *Intern Med*. 61:2941-2945, 2022.
- 3) 磯部紀子. 多発性硬化症. *日内誌*. 111(8): 1555-59, 2022.

2. 学会発表

- 1) Shoko Fukumoto, Mitsuru Watanabe, Masaaki Niino, Katsuhisa Masaki, Takuya Matsushita, Ayako Sakoda, Fumie Hayashi, Jun-ichi Kira, Noriko Isobe. Low gray matter volume can predict cognitive decline in Japanese patients with multiple sclerosis. 63rd Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology. Hybrid. Tokyo, Japan. 5.19, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。） なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし